

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目 長崎唐通事集団の研究

氏 名 楊 柳

論 文 内 容 の 要 旨

長崎唐通事は唐訳司とも呼ばれており、長崎奉行の管轄下に組織された地役人の一種である。この役職には広義のものと狭義のものがある。狭義の長崎唐通事は大通事・小通事・稽古通事の3職を指し、本通事と称されている。広義では、本通事のほか、その下にある唐人年行司・唐内通事・唐船請人、また異国通事（暹羅通事・東京通事・モウル通事）も含める唐船（中国船）貿易のために設置された諸役人を意味している。本研究の対象は本通事系の唐通事に限定したい。

長崎唐通事は慶長9（1604）年に新設された。当初、人数は少なかったが、17世紀中期頃に至って、大通事・小通事・稽古通事の3職階ができ、その後集団の形で明治維新まで存続していた。江戸時代を通じて、長崎唐通事集団は職制の分化によって、延べ22役が数えられ、就任者の延べ人数は1000人を超えたと考えられる。

彼らはほとんど明から清への王朝交代期に日本へ亡命した中国人とその子孫であり、長崎に定住した後に、その言語能力を生かして、唐船貿易の管理、渡航中国人の取締り、中国を中心とした海外情報の収集、文書の作成、中華文化の受容などの諸方面において非常に重要な役割を果たしていた。

これまで長崎唐通事に関して、近世日本対外貿易史・在日華僑史・日中文化交流史・中国語教育史において、数多くの研究が蓄積されてきた。そこでは、唐通事職そのものと唐通事を勤めた人々、という2つの面より、(1) 唐通事関係資料、(2) 唐通事の職制と役割、(3) 唐通事の家系と有名な人物、(4) 唐通事の語学力などが検討されている。これらの研究は、唐通事という役職について、その職制、職掌をめぐって考察を加えることが中心である。また、唐通事を勤めた人々については、有力通事の個人的な活動、家族の構成と役職の相続、言語習得などの研究が主な内容である。これまでは唐通事という集団を対象とし、その活動については、概括的に知られているものの、集団の実態とその変遷、業務ごとの担当者とそれぞれの役割、多様な活動などに

については、いまだ未開拓である。

江戸時代を通じて、長崎唐通事の就任者は人数が多いばかりでなく、在職中に何回も改名した者もあり、その巨大な集団についての考証は煩雑を極める作業であり、従来この長崎唐通事集団に取り組む研究があまりなかったのは、このような事情も関係していると思われる。

そこで、本研究は唐通事集団に焦点を当て、基本的な諸事実関係を丁寧な史料解説作業を通じて実証的に研究し、長崎唐通事集団の成立から終結にかけての各時期の様相、唐船貿易・唐人社会・唐船風説書に関する諸業務に対する対応、明治維新前後の集団としての動向について、考察を加える。具体的に言えば、散見されている唐通事関係の資料から、唐通事の名前や役職が見えるものをピックアップする。それを手がかりとして、各時期における唐通事団体の様子を復元し、その運営実態を明らかにする。

本研究では、唐通事の職歴や家系・生没年などはそれぞれ『訳司統譜』、『唐通事家系論考』の関連記事を参考にする。そのほか、分限帳も利用する。分限帳（諸役人帳・地役人附とも呼ばれる）は長崎地役人の名簿に当たるものである。毎年唐通事集団の在任者数、役料、昇進状況などはその分限帳に見える。その中に、作成者不明のものや新たに作り変えず、ただ人事異動情報を書き込んだり、貼紙をしたり、棒線を引いて削除したりしているものがあるため、記載情報の正確さを疑問視する意見があった。確かに、それと唐通事の役職別任免一覧である『訳司統譜』を対照してみると、唐通事の名前の部分の誤字や任免・昇格時間の間違いなどが見られる。しかし、ほんのわずかに過ぎない。諸役人帳は史料としての信憑性が高いと考えられる。諸役人帳類の史料の残存状況について、原田博二氏が調査を行った、結果、33種のものを確認することができた。本研究は原田氏によって整理された分限帳を参考にするとともに、九州大学で収集した分限帳を加え、唐通事集団の成立当初から1867年の地役人改革による解散に至るまで、その規模の変遷を考察する。

本研究は6章構成をとっている。第1章「長崎唐通事集団の様相」は唐通事集団の組織化される過程と後継者育成の2つの節に分けて考察を行う。長崎唐通事集団役職ごとの交代状況、規模変遷などを整理するとともに、後継者育成の方式を実証的に検討する。第2章「長崎唐通事集団の家系」は名門をめぐって、1860年の唐通事集団の陣容を復元するとともに、いわゆる新名門を再検討する。また、栄宗系呉家を取り上げて、長崎唐通事集団の性格を探る。第3章から第5章までは、唐船貿易、唐人社会、唐船風説書の3つの側面から、唐通事集団の業務対応、チームワークの様子を考察する。第6章は長崎唐通事集団の昌平坂学問所出役の交代状況を整理・考察するとともに、明治維新前後の唐通事集団の動向を長崎行政機関の変遷に沿って検討する。